

鎌倉の埋蔵文化財 29

Buried Cultural Properties in Kamakura 29

令和 6 年度発掘調査の概要



令和 8年 (2026) 3月
鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家による政治をはじめた地として知られ、その地下には鎌倉時代の町なみをはじめとして、旧石器時代から近代に至る人々の生活の痕跡が残っています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業などの土木工事により失われてしまうことも少なくありません。貴重な歴史的遺産が失われてしまうことにもつながりますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このように、埋蔵文化財がやむを得ず失われることとなる場合は発掘調査を実施し、その記録と成果を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史のさらなる解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、調査に関わる皆様のご協力を得ながら、この『鎌倉の埋蔵文化財』の発行等により、調査の成果を紹介しています。また、鎌倉歴史文化交流館等で展示を行うとともに、「全国文化財総覧」や「鎌倉市出土品データベース」等、インターネットサイトでも情報発信を行っています。これからも市民をはじめとする皆さまの歴史・文化への理解が深まるよう、様々なかたちで成果を公開してまいりますので、文化財の保護に対するご理解とご協力を賜りましょう、お願い申し上げます。

～目次～

1 円覚寺旧境内遺跡(山ノ内字西管領屋敷385番1外3筆地点)	1
2 材木座町屋遺跡(材木座一丁目36番2の一部地点)	4
3 長谷小路周辺遺跡(由比ガ浜三丁目258番2地点)	5
4 若宮大路周辺遺跡群(御成町764番3,4地点)	7
5 今小路西遺跡(扇ガ谷一丁目145番2地点)	9
6 鎌倉市内出土の仏華瓶	11
英文要旨	12

～例言～

1. 本書は令和6年度に市内で実施された発掘調査の概要を中心に掲載しました。
2. 本書は鎌倉市教育委員会文化財課が作成し、執筆編集は鈴木弘太が担当しました。
3. 本書の作成にあたり株式会社博通、一般社団法人鎌倉・中世文化研究センター、株式会社斉藤建設から資料の提供等のご協力をいただきました。
4. 『鎌倉の埋蔵文化財』シリーズ及び鎌倉市教育委員会が刊行した発掘調査報告書は、奈良文化財研究所データベース「全国文化財総覧」で閲覧することができます。

《表紙写真》 円覚寺旧境内遺跡で発見された鎌倉時代の遺構群の全景写真です。写真左側の深い掘り込みは現在の県道21号に並行する鎌倉時代の溝で、山ノ内道と呼ばれた街道の側溝と考えられ、鎌倉時代の街道が現在まで位置を変えずに踏襲されてきたことがわかります。

1. 円覚寺旧境内遺跡(山ノ内字西管領屋敷385番 1 外3筆地点)

Engaku-ji-Kyukeidai-Iseki Site

鎌倉時代の山ノ内道と屋地

本調査は、集合住宅の建設に伴い令和6年7月から12月まで実施され、鎌倉時代から室町時代に至る遺構群が発見されました。

調査区の南西側で発見された溝(表紙写真)は鎌倉時代の山ノ内道の側溝で、大きく3時期の変遷が認められ、当初は素掘りの溝だったのが、鎌倉時代後期になると木組みが施されます(写真1)。この頃は、建長寺や円覚寺等の大寺院が山ノ内地域に建立される時期であり、それに合わせて街道も整備されたのかもしれませんが。その後の南北朝時代になっても木組み側溝が造り直されていました。第3面とした遺構面では、北東から南西に流れる小河川が発見され、この街道に直交して側溝に流れ込んでいたものと推測できます(写真2)。小河川は、南北朝時代には石組みの護岸が施された溝に造り直されています(写真3)。

南西側は山ノ内道の側溝に、南東側は小河川又は石組み溝に囲まれた範囲には、掘立柱建物や井戸が発見されています。掘立柱建物は一辺10m以上もある大型の建物で、同じ場所で幾度も建て替えがなされています(写真4)。鎌倉幕府滅亡後の元弘三年(1333年)から建武二年(1335年)の間に作成されたと推定される『円覚寺境内絵図』で調査地点付近をみると、鎌倉街道の側溝とそれに直交する溝(小河川か)が描かれており、本調査で発見された遺構は、絵図に描かれた施設に該当する可能性もあります。



写真1 鎌倉時代後期の山ノ内道側溝の木組み護岸

Photo 1: Timber-framed revetment in the drainage ditch along the Yamanochi Road, late Kamakura period.



写真2 東から南西に流れる小河川（写真手前）

Photo 2: Small stream flowing from east to southwest (foreground).



写真3 石組み側溝 小河川が埋められ、南北朝時代に石組み側溝に造り変えられる。

Photo 3: Stone-lined drainage ditch. The small stream was filled in and rebuilt into a stone-lined drainage ditch during the Nanbokucho period.



写真 4 白と赤のマーキングが柱の跡、建物が重複するように建て替えられている。
Photo 4: White and red markings indicate post holes. The buildings were rebuilt so that they overlap.



写真 5 鎌倉時代の井戸跡。木枠が良好な状態で発見された。
Photo 5: Site of a well dating back to the Kamakura period. The wooden frame was found in good condition.

2. 材木座町屋遺跡 (材木座一丁目36番2の一部地点)

Zaimokuza-Machiya-Iseki Site

中世の潟湖(ラグーン)の痕跡か

調査地点は、水道道の北側で旧字名では上河原と呼ばれた地域の北側に位置します。

調査面積は約260㎡で、令和6年3月から7月にかけて集合住宅の建築に伴い、最深で現地表下約4メートルまで発掘調査を実施した結果、滑川の河口部から由比ガ浜へとつながる潟湖の跡と考えられる土砂の堆積が確認されました。調査区のほぼすべてが潟湖内であった可能性があります(写真6)。

厚さ30から60cm程度の表土の下には、遺物をほとんど含まない泥土が発見されました。この地層の最下部には富士山から噴出した火山灰(宝永4年(1707年)噴火)が堆積していたことから、これ以降、近代までに堆積した沼の泥土であることが分かりました。またこの地層では、元禄16年(1703年)大地震の影響と考えられる噴砂の痕跡が確認されています(写真7)。

この泥土層の下からは、遺物を大量に含む礫層が発見されました。この礫層に含まれる土器・陶磁器、軟質の凝灰岩などはすべて丸く摩滅しており、遺物の年代は古墳時代から鎌倉時代までのものが攪拌された状態で出土しているため、津波の堆積層であると考えられます(写真8)。この津波堆積層の下層には、潟湖の底面となる砂礫層が堆積していました。この調査成果からは、元々あった潟湖は、鎌倉時代頃に津波により埋まり、江戸時代以降は沼となり、近代に泥岩で埋め立てられたと推定されます。



左上：写真6 調査状況

Photo 6: Survey conditions.

左下：写真7 地面から噴砂が吹き上がっている。

Photo 7: Sand boils rising from the ground.

右下：写真8 摩滅した遺物や礫の堆積

Photo 8: Worn artifacts and gravel deposits.



3. 長谷小路周辺遺跡(由比ガ浜三丁目258番2地点)

Hase-Koji-Shuhen-Iseki Site

鎌倉時代の人骨が出土

令和6年4月から9月まで、鎌倉市立由比ガ浜中学校建設に伴い実施された発掘調査では、奈良・平安時代の竪穴建物や、鎌倉時代の半地下式建物、墓等が発見されています(写真9)。特に2体の鎌倉時代の人骨は非常に良好な状態で発見されています。

そのうちの一体の人骨は、土壙墓と呼ばれるタイプのお墓で、地面に穴を掘り、うつ伏せで、膝を曲げた状態で埋葬されていました。人骨は指骨が数点欠失していますが、極めて良好な状態で出土しています。歯の生え変わりや、骨端部の癒合の状況から、14歳から17歳の若年層で、骨盤の形態等から女性であることが判断できます。大腿骨の長さから求めた推定身長は137.9cmで、この時代の女性としても、やや小柄であったと考えられます。また古病理学的な所見では、眼窩部上壁に小孔が認められ貧血症等の疾病があったことが推定されます(写真10)。なお、副葬品は確認できませんでした。

鎌倉時代の地層のより下層からは、奈良・平安時代の住居跡が発見されています(写真11)。隣接する由比ガ浜三丁目194番1, 262番1地点(由比ガ浜こどもセンター地点、『鎌倉の埋蔵文化財21』参照)では、古墳時代後期と考えられる石棺墓が発見されており、この付近一帯が鎌倉時代以前から土地利用がなされていたことが明らかになりました。



写真9 中世遺構面全景写真。砂層の上に遺構が掘り込まれている。

Photo 9: Panoramic view of the medieval foundation. The structure is excavated into the sand layer.



写真 10 鎌倉時代の女性の人骨。非常に良好な状態で出土した。

Photo 10: Human remains of a woman from the Kamakura period. Excavated in exceptional condition.

写真 11 奈良・平安時代の竪穴住居跡。四角に掘りくぼめられた範囲が建物範囲、中から土器等が出土している。

Photo 11: Site of pit dwellings from the Nara and Heian periods. The area excavated in the shape of a square indicates the building footprint. Pottery and other artifacts were unearthed from within.



4. 若宮大路周辺遺跡群(御成町764番3, 4地点)

Wakamiya-Ōji-Shuhen-Isekigun Site

建物部材が良好な状態で出土

本調査は個人専用住宅の建築に伴い、令和6年5月から7月まで実施され、鎌倉時代の半地下式建物とその建築部材が良好な状態で発見されました。

調査地点は、現在の御成小学校の東側約100mに位置します。御成小学校の東側を南北に走る道路は今小路とよばれ、鎌倉時代には市街地の幹線道路として機能し、沿道には商業施設が立ち並んだ地域もあったと考えられています。調査では、砂層上に鎌倉時代後期の生活面が発見され、倉庫と推定されている半地下式建物4棟と、溝や土坑などが発見されています。半地下式建物の一棟は、建物の建築部材が良好に残っていました。調査区の西側隅で建物の一部のみの発見でしたが、建物の壁や上屋の基礎になる土台角材に、その土台の安定を図るために敷かれた凝灰岩製の切石を伴っていました。切石には土台の位置を決めるための罫書き線が刻まれており、慎重に組み上げられていたことがわかります。また発見された壁材の一部は4、5寸の角材を積み上げて壁とする「蒸籠積み^{せいろづ}」と呼ばれる工法が用いられるなど、建物構造を考える上で貴重な発見例です(写真13)。

また他の半地下式建物の埋め土からは、クジラの肋骨も出土しています(写真14)。鎌倉市内の海浜部ではクジラの椎骨等の出土例もあり、中世鎌倉においてクジラが資源として利用されていたことがうかがえます。



写真12 建築材が良好な状態で発見された。

Photo 12: Building materials were discovered in good condition.



写真 13 半地下式建物の蒸籠積みと呼ばれる壁構造

Photo 13: Wall structure of a semi-subterranean building called “seirozumi” (steamer basket masonry) .



写真 14 調査区全景写真 手前でクジラの肋骨が出土している。

Photo 14: Panoramic view of the survey area. Whale ribs were unearthed in the foreground.

5. 今小路西遺跡(扇ガ谷一丁目145番2地点)

Ima-Koji-Nishi-Iseki Site

調査地点は、鎌倉市役所の東側を南北に走る今小路から西に折れて、「無量寺谷」に向かう道に面しています。「無量寺」は鎌倉御家人安達氏に関連する「無量寿院」と考えるのが一般的となってきました。この近隣では奈良時代の瓦が出土しており、御成小学校校内で見つかった鎌倉郡衙に関連する古代寺院の存在も想定されている地域です。

調査では、鎌倉時代前半から南北朝時代初め頃の3時期の生活面で、砕いた泥岩を敷き詰めた道路や道路側溝と思われる溝が見つかりました。道路や溝は東西方向に延びており、「無量寺谷」へ向かう道路であった可能性があります。

鎌倉時代より下層からは東西・南北方向の溝や柱穴等が見つかりました。注目されるのは、溝を埋めた土から瓦の破片が多く出土したことです。瓦の年代は奈良時代頃と考えられます。出土した瓦は丸瓦・平瓦の破片ばかりで、瓦当文様が残る軒瓦はありませんでしたが、表面に綾杉状の文様が見られるものがあります。瓦を作る時には粘土を叩いて空気を抜きますが、そこで使う叩き板という道具に幾何学的な文様が刻まれていることが多く、粘土にその模様がつきます。「綾杉状」の叩き痕のある平瓦は(写真17)、古代相模国では鎌倉郡周辺だけで出土する特徴的なものです。今回出土した瓦には三浦半島で当時操業していた「石井瓦窯」、「乗越瓦窯」で作られたものとよく似ている資料もあり、古代寺院の創建・改修にかかわる技術系譜や社会背景を考える上でも、重要な資料になります。



写真 15 発見された鎌倉時代の道路遺構 泥岩を敷き詰めて路面としている。

Photo 15: Remains of the road from the Kamakura period that were discovered. The road surface was paved with mudstone.



写真 16 奈良時代と考えられる溝と柱穴

Photo 16: Ditch and post holes believed to date back to the Nara period.



写真 17 出土した奈良時代の平瓦 幾何学的な「綾杉文」が特徴

Photo 17: Flat tiles from the Nara period that were excavated. Characterized by their geometric “ayasugi” (herringbone) pattern.

6. 鎌倉市内出土の仏華瓶

Buddhist Flower Vases Unearthed in Kamakura

写真は鎌倉市内の鎌倉時代から南北朝時代の遺跡から出土した、陶器の仏華瓶^{ぶっけびょう}です。仏華瓶とは、仏前に花を添えるための仏具で、燭台と香炉とあわせて三具足^{みつぐそく}と呼ばれます。鎌倉の中世遺跡では、磁器や陶器、土器等、さまざまな材質やデザインのもものが、市内各所から出土します。一般に三具足は戦国時代から江戸時代にかけて庶民へ広がったといわれますが、鎌倉時代の鎌倉においては、それらに先駆けて普及していた可能性があります。

ところで、写真の三つの仏華瓶のうち、左は、元時代の中国で生産されたもので、未だ正確な産地は発見されていません。右の二つは、現在の愛知県瀬戸市で生産されたものです。黒色又は褐色の釉薬をかけられ、胴部には花文や巴文が施されており、中国産の仏華瓶をモデルとして日本国内で写しが生産されたものと推定されます。

鎌倉の市内遺跡からは、国内外の様々な文物が出土します。出土品からは当時の生活様式や国内外の技術交流等をうかがい知ることができます。

なお鎌倉市内の出土品は「鎌倉市出土品データベース」で、鎌倉市が刊行した発掘調査報告書は奈良文化財研究所「全国文化財総覧」でご覧いただけますので、ご覧ください。



写真 18 鎌倉市内から出土した仏華瓶

Photo 18: Buddhist flower vases unearthed in Kamakura City.

Buried Cultural Properties in Kamakura 29

1. Engaku-ji-Kyukeidai-Iseki Site (Aza-Yamanouchi, Nishikanrei Yashiki 381-1 and three other land lots)

In this survey, which was carried out from July to December 2024 in line with the construction of an apartment complex, a group of structures dating from the Kamakura to Muromachi periods was uncovered.

The ditch discovered on the southwest side of the survey area (cover photo) was a drainage ditch along the Yamanouchi Road dating back to the Kamakura period. This ditch was identified as having undergone three major phases of change. Initially a simply-dug ditch, it was subsequently reinforced with timber framing in the late Kamakura period (Photo 1). This period coincided with the establishment of Kencho-ji, Engaku-ji, and other major temples in the Yamanouchi area, which suggests the road may have undergone improvement to coincide with that. The timber-framed ditch would continue to be rebuilt even after the Nanbokuchō period that followed commenced. In the foundation constituting the third phase, a small stream flowing northeast to southwest was uncovered. It can be inferred that the stream fed into the ditch at a right angle to the road (Photo 2). By the Nanbokuchō period, this stream had been rebuilt into a ditch containing stone-lined revetments (Photo 3).

Within the area enclosed by the drainage ditch along the Yamanouchi Road on the southwest side and the small stream or stone-lined ditch on the southeast side, post-and-beam structures and wells were discovered. The post-and-beam structures were large buildings, some of which were as tall as ten meters or more on a single side, that were rebuilt multiple times at the same location (Photo 4). Looking at the area near the survey site on the “Engaku-ji Keidainai Kaizu” map of the temple grounds presumably created between 1333 and 1335 after the fall of the Kamakura Shogunate, depicted there is a drainage ditch along the Kamakura Kaidō road and a ditch (or perhaps a small stream) that intersects it at a right angle. The structures uncovered in this survey may correspond to the facilities depicted on the map.

2. Zaimokuza-Machiya-Iseki Site (Part of Zaimokuza 1-36-2)

The survey site is located to the north of Suidomichi on the northern side of the area formerly called Kamigawara.

The survey area covered approximately 260 m². From March up through July 2024, excavations that reached a maximum depth of approximately 4 m below the current ground surface were carried out in line with the construction of an apartment complex. As a result, the presence of sediment deposits is believed to be the remains of a lagoon that connects the mouth of the Namekawa River to Yuigahama Beach. It is possible that nearly the entire survey area was within this lagoon (Photo 6).

Beneath a topsoil layer with a thickness of approximately 30 cm to 60 cm, muddy soil containing almost no artifacts was uncovered. The lowest part of this stratum contained deposits of volcanic ash that had erupted from Mount Fuji (in the eruption of 1707), indicating that it was muddy soil from a march that had been deposited from that period until modern times. Additionally, traces of sand boils surmised to have been caused by the Great Earthquake of 1703 were also identified in this stratum (Photo 7).

Beneath this layer of mud, a gravel layer containing artifacts in great quantity was discovered. These artifacts, which included pottery, ceramics, and soft tuff, were all rounded and worn, and were found in a state in which artifacts dating from the Kofun period to the Kamakura period were mixed together. As such, the gravel layer is thought to be a tsunami deposit (Photo 8). Beneath this tsunami deposit layer, a layer of sand and gravel forming the bottom of the lagoon had been deposited. Based on these findings, it is inferred that the lagoon as it originally existed was buried by a tsunami around the Kamakura period, after which it turned into a marsh during or after the Edo period and was filled in with mudstone in the modern era.

3. Hase-Koji-Shuhen-Iseki Site (Yuigahama 3-258-2)

In a series of excavations conducted from April to September 2024 in line with the construction of Kamakura City Yuigahama Junior High School, pit dwellings from the Nara and Heian periods and semi-subterranean structures, graves and more from the Kamakura period were discovered (Photo 9). Of particular note are two sets of human remains from the Kamakura period, which were found in excellent condition.

One of those sets of human remains was found in a pit grave buried in a hole dug into the ground with its face down and knees bent. While it was missing several phalanges, the remains were unearthed in exceptional condition. Judging from the nature of tooth replacement patterns and fusion of the epiphyses, this particular individual was a young person aged 14 to 17 years old, with a pelvic morphology that suggests they were female. With its estimated height calculated based on femur length at 137.9 cm, this individual was likely slightly petite even for a woman from that era. Additionally, paleopathological findings show a small perforation on the superior wall of the orbital area, suggesting anemia or another disease (Photo 10). Note that no burial goods could be identified.

Beneath the strata dating back to the Kamakura period, remains of residences from the Nara and Heian periods were discovered (Photo 11). At the adjacent sites Yuigahama 3-194-1 and 3-262-1 (Yuigahama Children’s Center; see “Buried Cultural Properties in Kamakura 21”), stone coffin graves believed to date back to the late Kofun period were found. This made it evident that the entire nearby area was used for land purposes since before the Kamakura period.

4. Wakamiya-Ōji-Shuhen-Isekigun Site (Onarimachi 764-3 and 764-4)

In this survey, which was carried out from May to July 2024 in line with the construction of a private residence, semi-subterranean buildings dating back to the Kamakura period and associated building components and materials were found in good condition.

The survey site is located approximately 100 meters east of the current Onari Elementary School. The road running north-south to the east of Onari Elementary School is called Ima-Koji. During the Kamakura period, it is believed to have functioned as a main arterial road in the city's downtown area, and to have had commercial facilities lining some areas along the road. In this survey, aspects of daily life in the late Kamakura period were found atop a sand layer, as were four semi-subterranean structures presumed to be storehouses, ditches, pits, and more. At one of the semi-subterranean structures, the building's components and materials had remained in good condition. While only part of the building was discovered in the western corner of the survey area, it was accompanied by base corner blocks forming the foundation for the building's walls and roof structure as well as by cut tuff stones laid to help stabilize that foundation. The cut stones were engraved with marking lines for determining the position of the foundation, an indication that the building was assembled with care. Additionally, some of the wall materials that were found employed a technique called "seirozumi" (steamer basket masonry) through which square timber measuring 4-5 sun, or roughly 120-150 mm, was stacked to form walls. This and other elements make the building a valuable example of discovery for examining building structure (Photo 13).

Also unearthed from the fill soil of another semi-subterranean building were whale ribs (Photo 14). Given the precedents of vertebrae and other whale remains being found in coastal areas within Kamakura City, one can deduce that whales were utilized as a resource in medieval Kamakura.

5. Ima-Koji-Nishi-Iseki Site (Ogigaya 1-145-2)

The site of this survey faces the road turning west from Ima-Koji, which runs north-south to the east of Kamakura City Hall, towards "Muryo-ji Valley." Over time, "Muryo-ji" generally came to be considered "Muryoju-in," which has an association with the Adachi clan that served as a vassal under the Kamakura shogunate. Nearby the site, roof tiles dating back to the Nara period were excavated, and the area is assumed to have also hosted an ancient temple related to the Kamakura District Office discovered within the grounds of Onari Elementary School.

The survey uncovered roads paved with crushed mudstone and ditches thought to be roadside gutters as aspects of daily life spanning three Japanese historical periods from the early Kamakura period to the beginning of the Nanbokuchō period. As these roads and ditches extended east-west, it is possible they constituted roads heading to "Muryo-ji Valley."

Discovered in layers dating further back than the Kamakura period were trenches pointed east-west and north-south, post holes, and more. Of particular note is the large number of tile fragments unearthed from the soil filling in the trenches. These tiles are believed to date back to the Nara period. The excavated tiles consisted solely of fragments of round tiles and flat tiles, with no eave tiles containing remnants of tile cap patterns found. However, an "ayasugi" (herringbone) pattern was visible on the surface of some of the fragments. When making tiles, clay is pounded to remove the pockets of air in them. The tools used for that purpose, called pounding boards, are frequently carved with geometric patterns that are imprinted onto the clay. Flat tiles exhibiting this ayasugi pounding pattern (Photo 17) are unique in that within the ancient Sagami Province, they are only found in the surrounding area of Kamakura District. Among the tiles unearthed in this survey are artifacts that closely resemble tiles produced at the "Ishii Tile Kiln" and "Norikoshi Tile Kiln" in operation on the Miura Peninsula at the time. These artifacts are important for examining the technical lineage and social background related to the founding and renovation of ancient temples.

6. Buddhist Flower Vases Unearthed in Kamakura

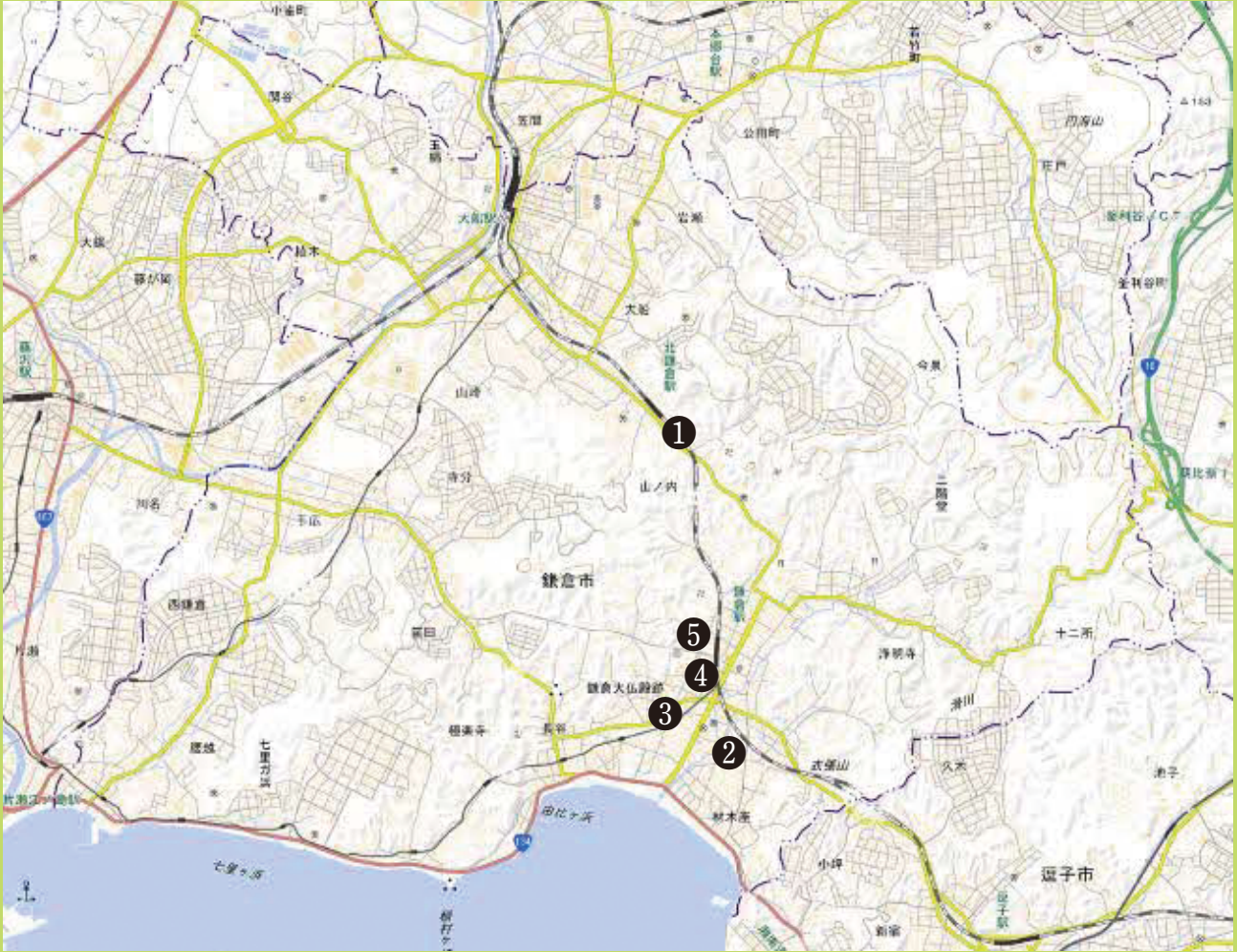
The photograph shows ceramic Buddhist flower vases unearthed from sites in Kamakura City that date back to the time between the Kamakura period and the Nanbokuchō period. These implements for Buddhist worship used to place flowers before images of Buddha are considered one of the three such implements, or "mitsugusoku," alongside candle stands and incense burners. At medieval sites in Kamakura, such vases consisting of various materials and designs, including those made of porcelain, ceramic, and earthenware, have been found in locations throughout the city. While the mitsugusoku are generally said to have spread to the commonfolk from the Sengoku period up through the Edo period, they may have been popularized first in Kamakura during the Kamakura period.

Incidentally, among the three Buddhist flower vases in the photo, the one on the left was produced in China during the Yuan Dynasty, though its exact place of origin remains undiscovered. The two on the right were produced in what is present-day Seto City, Aichi Prefecture. Covered in black or brown glaze, their bodies are adorned with floral or swirl patterns. The vases are presumed to be copies produced in Japan, modeled after their Chinese counterparts.

Various cultural artifacts from both Japan and abroad have been unearthed at sites in Kamakura City. These artifacts provide insight into aspects such as lifestyles at the time and domestic and international technical exchange.

Note that artifacts unearthed in Kamakura City can be viewed in the "Kamakura City Excavated Artifact Database," and excavation reports published by Kamakura City can be viewed in the "Comprehensive Database of Cultural Heritage in Japan" by the Nara National Research Institute for Cultural Properties.

本書掲載の調査地点



掲載遺跡名称及び所在地一覧 (国土地理院地図を基に作成)

- 1 円覚寺旧境内遺跡 (山ノ内字西管領屋敷 385 番 1 外 3 筆地点)
- 2 材木座町屋遺跡 (材木座一丁目 36 番 2 の一部地点)
- 3 長谷小路周辺遺跡 (由比ガ浜三丁目 258 番 2 地点)
- 4 若宮大路周辺遺跡群 (御成町 764 番 3, 4 地点)
- 5 今小路西遺跡 (扇ガ谷一丁目 145 番 2 地点)

鎌倉の埋蔵文化財 29

発行日 令和8年(2026年)3月31日
編集・発行 鎌倉市教育委員会 教育文化財部 文化財課
〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号
電話：0467-61-3857 FAX：0467-23-1085
E-mail：bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
印刷 株式会社ポートサイド印刷
